

令和7年度 武蔵野市立井之頭小学校 学校評価報告書

校長名 小澤 香子

【評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：達成がやや不十分である D：達成が不十分である】

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
第四期学校教育計画関連	「学校は、教育目標や教育活動について、学校HPや学校便りなどで、分かりやすく発信している（選択肢＝とてもそう思う・そう思う・あまり思わない・思わない）」	○保護者の肯定的回答率＝92.3%（回答者数298人） ○教育活動についてはホームページで定期的な発信ができていた。 ●教育目標と教育活動を関連付けて発信する必要がある。	B	・教育活動が、教育目標にどう関連しているかが分かりやすいよう発信する。	・教育目標については多様な方法で発信するとよい。 ・保護者アンケートにおいて「分からない」と回答が多かった項目についての発信を特に工夫するとよいのではないかな。
	「校務改善や見直しにより、子どもと向き合う時間が増えた」（選択肢＝とてもそう思う・そう思う・あまり思わない・思わない）」	○教職員の肯定的回答率＝71%（回答者数31人） 学年だよりと学年だよりを統合したことやあゆみの総合所見をなくし個人面談に変えたことで 教師と保護者が児童の学習、生活の様子を共有できた。 ●前年度と比べ在校時間は短縮傾向にあるが、教員の実感が伴っているとは言えない。	B	・ゆるやかな学年担任制、交換授業や教科担任制を取り入れる。効率的な校務の進め方についてさらに具体策を見出す。 ・練習問題や家庭学習について、今後導入されるオンラインのドリルを有効活用する。	・時間割の制約などがあり、難しい点はあると思うが、できることを推進していくとよい。 ・オンラインドリルがどれだけ活用できるか未知数であるがアナログとデジタルを効果的に活用してほしい。
進んで学ぶ子	主体的・対話的で深い学びの実現を目指した「授業改善と言語活動の充実」を図る。	授業改善 （教員＝93.5% 保護者＝81.6%） ○自己決定や自己調整する場を設定し、各教科等の特質に応じた言語活動の充実を図った。研究授業や授業観察では児童が積極的に取り組む姿が見られた。 学習者用コンピュータの活用 （教員＝90.3% 児童＝91% 保護者＝68.5%） ○学習者用コンピュータを発表のためのスライド作成やインターネットを使った調べ学習など積極的に活用している。 ●長時間の使用、インターネットの使用などに不安を感じている保護者もいる。 読書活動・図書館活用の充実 （教員＝90.3%） ○朝読書や保護者や教師による読み聞かせを含めた読書活動の充実を図った。学校司書が積極的に本の紹介、資料の活用など働き掛けている。中央図書館の団体貸し出しを活用している。	B	・校内研究を軸に具体的な手立てを見出し全教員で取り組む。 ・校内では自己申告授業観察や年次研授業、校外では教師道場や指導教諭の研究授業から教員が学ぶ機会を多くする。 ・ミライシードを活用する。 ・使用ルールについて発信の機会を増やし、保護者の理解を求める。 ・仮設校舎での図書利用、図書館利用の仕方を学校司書と連携し工夫する。	・この項目について「分からない」回答した保護者が一定数いたが、日頃から、家庭でも学校や授業の様子について、子供と対話を一層深められるとよいのではないかな。 ・コンピュータを使つての学習が当たり前になってきたが「鉛筆で書く」などの学びも大切にほしい。
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルとアナログを適切かつ効果的に活用することや新たな環境の中、工夫しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。 ・教員の専門性向上と校務の効率化を図るため、具体的な手立てを共通実践する校内研究を行っていく。 					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
心豊かな子	<p>人権教育及び、合理的配慮に基づいた「特別支援教育」を推進する。</p>	<p>いじめ未然防止の取組の充実 (教員=93.5% 児童=91.3% 保護者=67.4%) ○いじめ防止基本方針の年間計画に基づいて、児童主体のいじめ防止に向けた取組を年1回行うとともに、各学級でいじめ防止について授業を学期に1回実施した。児童自らが考える取組を行っている。 理解教育の推進 (教員=100%) ○理解教育を全学級で実施した。多様な人との関わりについて考えるとともに、かわせみ教室への理解が深まった。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育やいじめ未然防止の取組について地域、保護者に一層広く発信する。 児童一人一人の変化に対応するためのゆるやかな教科担任制を推進していく。 理解教育や手話朝会の目的や意義について繰り返し児童に伝えるとともに児童が学校生活に生かせるような指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童にとって自分の存在や行動を肯定的に受け止めてもらえることが、安心感と自己肯定感につながり、自分も相手も大切にできるのではないかと。
	<p>望ましい人間関係を育み多様性を生かす「特別活動の充実」を図る。</p>	<p>児童主体の活動や取組の推進 (教員=100% 児童=81.3%) ○70周年と言うこともあり、児童の思いや願いを生かした活動や取組を行うことができた。実行委員会などを立ち上げ、児童は主体的に活動している。</p> <p>互いに認め合いながら合意形成を図る資質・能力の育成 (教員=96.6% 児童=76.8%) ○学級活動での話し合い活動を年間10回以上実施している。教師がファシリテーターとなって児童主体で行っている。 ●話し合い活動の議題がお楽しみ会やイベントに偏る傾向がある。</p> <p>児童主体の生活指導上の課題解決 (教員=93.5%) ○トイレの使い方や公園のマナーについて考え話し合う機会をもった。 ○学年でアンケートをとり、児童自ら課題について考える時間をとった。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童の思いや願いを生かした児童主体の学校行事の取組を継続する。 学級や学校の諸問題に意識を向けさせ、解決のための話し合い活動を行う。 話し合い活動の技能は、6年間を見通して身に付けさせる。 仮設校舎での過ごし方、歩行の仕方について学級で話し合う機会をもつ。記名のない落とし物は保護者への協力を呼び掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童は70周年行事において、自分の役割に責任をもって生き生きと活動していた。 行事を通じて児童が社会性や所属感、自己有用感を育んだ様子が見られた。
	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゆるやかな教科担任制を行うことにより、複数の目によるきめ細やかな見守りを進める。 ○相手の意見を肯定的に受け止めるなど、6年間を見通した「対話」の指導の充実を図る。 ○人権教育やいじめ未然防止の情報発信を行い「見える化」を推進する。 				

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
きたえる子	「児童が安心して学校生活を送ることができる体制」を構築する。	学校全体で児童一人一人を見取り理解し支援する体制 (教員=86.2% 児童=88.7% 保護者=92.3%) ○交換授業や交換読み聞かせなどを行い、学年児童の理解を深めることができた。児童への指導や対応も学年で行った。 ●専科、講師が多いため、交換授業や教科担任などの時間割が組みづらい実態がある。 関係機関との連携 (教員=100%) ○「ひだまり教室」(常駐型の「家庭と子供の支援員」) SC、SSW と情報共有し、相談しながら対応している。 ○連携により、不登校傾向のある児童への支援や居場所づくりができ、教室へとつながるようになってきた。 ●居場所としてのスペースを必要とする人数に合うよう十分確保したい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆるやかな学年担任制の推進を図るとともに、児童、保護者、地域への周知を図る。 ・教材・教具の共有化、SSSを積極的に活用する。OJTを推進し、校務が偏らないようにする。 ・教育相談部会の充実(教育相談部会の担当の役割を明確にする。常駐型の支援員と有償ボランティアとの連携強化) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人が児童の姿を具体的にほめたり、認めたりするなど、児童の主体的な行動を承認していくことが大切である。 ・「学校が楽しくない」と回答した児童の背景を詳しく知り、解決が図れるものは解決する必要があるのではないかと。 ・個人面談で、保護者と直接対話をするすることで、その子のよさや課題について個々に対応していることはよいと思う。
《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 ○全教職員で一人一人の児童を見取り、理解に努め、連携しながら指導、支援を行う。 ○専門家や地域の関係団体とより一層の連携を図る。					
特色ある教育活動	幼稚園・保育園・こども園・中学校との連携」を図る。	幼稚園・保育園・子ども園との連携 (低学年担当教員=82.4%) ○生活科を中心として、1年生児童と幼稚園・保育園・こども園の幼児との交流を年2回実施したほか教職員の交流(相互の見学会、懇談会等)を年2回以上実施し情報共有と相互理解を図ることができた。 中学校との連携 (教員=100%) ○中学校見学を今年度実施し、児童が中学校生活のイメージをもつことができた。 ○教員の合同研修会を年2回実施し、9年間を見通した指導や目指す児童・生徒の姿について情報交換や共通理解を図ることができた。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設校舎への移転で地理的な変化を伴う。そのため、継続できる形を今後も探りながら幼稚園・保育園・こども園と連携し研修なども行っていく。 ・仮設校舎での3年間は、連携を深める機会をとらえ、計画的に児童生徒の交流や、教師交流を深めていく。 ・第一中学校と連携した教育活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設校舎でのメリットを生かして、中学校とより一層の連携を図ることができるとよい。

	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
特色ある教育活動・働き方改革	「開校 70 周年記念行事、仮設校舎への移転の円滑な実施」	開校 70 周年記念行事の実施 (教員=100%) ○地域や保護者と連携しながら、開校 70 周年記念式典や記念行事の計画を立案、準備し実施することができた。 ○教育活動を「開校 70 周年記念」「さようならブーメラン校舎」と関連付け、児童や教職員によるアイデアを生かした企画を推進した。 ●開校 80 周年記念行事に向けて、資料の保存の仕方を工夫する。 仮設校舎への移転の円滑な実施 (90.4%) ○先に移転完了した第五小学校、移転先の第一中学校と情報共有連携をとりながら、移転までの諸準備と移転後の教育活動について計画や準備を進めた。 ●移転作業に伴う業務が増えている。	B	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくり協議会の機能を生かしながら、地域や保護者との連携を一層深める。 速やかな課題解決、前例にとられない柔軟な取組を今後も行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 改築・引っ越し・周年行事が重なるスケジュールの中、教職員が前向きに取り組み、円滑に進行した。 仮設校舎での生活において、子供たちの運動量の確保のための工夫が必要ではないか。
	「ワークライフバランスの改善」と「学校組織運営の充実、職員の連携」	効率的な校務の推進 (教員=96.8%) ○ペーパーレス、諸会議を進めるための時間配分の工夫、回覧板やクラスルームを活用した。(教員=96.8%) ●紙とデータが混在していて資料が多く感じるため、整理する必要がある。 ○全教職員が学校運営に参画する意識をもって課題発見に努め、課題解決への提案や取組を行うことができた。(93, 5%) ○ミニ研修や若手研修に主体的に参加し学んだことを指導に生かした。(教員=96.8%) ○外部の研修に積極的に参加した。(教員=87.1%) ●学んだことを自らの指導に生かすだけでなく、校内に還元する必要がある。 ○OJT を積極的に行った。職場内でも安心して相談でき、都度学んでいる。(教員=96.8%)	B	<ul style="list-style-type: none"> 自己申告の面談などを活用し、教員一人一人に応じた効率的な業務の進め方について話し合う。 育業にとどまらず、安心して休める、安心して働ける職場づくりのために、教員同士の関係づくりを進めていく。(全校担任、ゆるやかな学年担任、副担任制) 校内、校外の研修について奨励し、教員に計画的に参加させる。 会議などで教員同士の意見交換、対話の場を設定していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校が大きな変革期(周年行事や移転)にある中で、単に負担を減らすだけでなく、業務の質を転換することで組織力を高めていく必要がある。
《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 ○第一中学校との連携をより推進する。児童と生徒の交流では児童や生徒の発想や主体性を生かした連携の取り方を模索する。					